

教材教具名 読みやすいアナログ時計	教科 (数学・算数)
----------------------	---------------

教材教具写真



教材教具の概略(ねらいと使い方)

- 1 ねらい アナログ時計をスモールステップで読めるようになる。
- 2 発達段階 数量概念が乏しくても、数字が読めて1対1対応の理解ができる実態  
(太田ステージではStage 以降の段階「シンボル機能がはっきり認められる段階」以降前操作期初期以降)
- 3 使い方  
短針が指している数字やブロック、長針が指している数字をそのまま読めば、時間や時刻を読むことができる。  
(行動目標設定として)いつまで今の状態が続くかわかるように、指示用の長針を外側から粘着ブロックで貼り付けて使用することもできる。  
その際には、絵、写真カード等の視覚情報をあわせてはっておくと行動の見通しも立ちやすい。  
使用に慣れてきたら、数字盤を変える。長針の目盛りを5刻み、ついで10刻みにするなど通常のアナログ時計のように変更し、最終的には一般の時計が使えるようにする。

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)

デジタル時計が普及しているが、アナログ時計の良さを活用して、単に時刻が読めるようになるだけでなく、時計を利用して見通しをもって生活できるようになってもらいたい。

本学級の生徒のうち、1名は2桁の数字も読むことができるが、多くは数量としての認識は乏しく、10までの数を読んだり唱えたりする実態である。それでも、絵カード等の視覚支援により日課の見通しを立てることができる生徒が多いため、実生活では、より行動の切り替えのタイミングや時間の見通しをわかりやすく示していきたいと考えている。

その際に読みやすいアナログ時計を利用し、パターンの的にも時計や時刻の読み方を理解させ、これから何をして、いつ終わるかという情報を知るツールとしても利用できるようにしたい。以後段階的に一般的な時計を利用できるようになり、自分たちの生活をより計画的に安心して過ごすことができるようになってほしいと願う。

参考文献 「あると便利! 特別支援教育の手作り簡単お役立ちグッズ」小橋川哲男著 明治図書